



くすのき



学校のシンボル
くすの木

令和6年8月28日

さいたま市立土合小学校

ライブの意味、オンラインの意味

校長 白倉 秀樹

39日間の夏休みが過ぎ、子どもたちの元気な声が学校に戻りました。今年度も猛暑の中、日本各地で台風等の非常変災によって被害にあわれた地域の方々が多くいらしたと報道等で伝えられていました。心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く御復興されることを祈念しております。また、地震による被害が起きたことも忘れてはなりません。安全に対する意識を高めて2学期をスタートさせていきたいと考えております。

今年度も、この夏休み期間中に全国各地で様々なイベントが行われていました。世界的なイベントとしてオリンピックも行われ、選手の皆さんの活躍を目の当たりにしました。様々な動画配信サービスやSNS等で24時間確認できることも、あらためてすごいことだなと実感しました。

スポーツだけでなく、音楽関係や演劇関係でもそうですが、Web上で様々なものが動画として記録され、好きな時に見られるようなサービスが展開されている中で、それでもやはり人は、実際にその会場に行き見たり聞いたりすることを選びます。それはなぜかといえば、やはり実際に自分の好きなものを目の当たりにすることに意義を感じているからです。いわゆるライブに参加することにより、そこで得るものが何物にも代えがたいものだと感じているからだと思えます。

学校も含む教育現場のICT環境だけでなく、世界の生活はICT技術の進歩によりかなり変わりました。オンラインでの授業や会議は日常化し、仮想空間によるコミュニケーションも当たり前となりつつあります。飲食店では、注文はタッチパネル、食事を運ぶのはロボットという光景が定着しつつあります。しかし、やはり直接見たり聞いたり触れたりすることによって得られる経験は、自分の成長につながる人と人は実感していることが、この夏に様々な場所に出かける人々の姿によって証明されたのではと感じました。

今、GIGAスクール構想によるICT教育が推進される中で、協働的な学びにおける「対話の力」が注目されています。世界各国の方々と現実世界であるにしろ仮想世界であるにしろ、どんな場面でも、つながるためにまずは対話から始まるということがその理由です。私もICTの有用性は認めていますし、これからのコミュニティ・スクールの形として主となるものだと確信しています。しかし、実際に会う場合でも、画面越しに会話をする場合でも、どのように対話していくかによって、その出会いの意味は大きく変わります。対話をするにしても、何を話すのか、どういった形で進めるのかなど対話能力が問われる場面は今も昔も変わりはないと思えます。

現実に存在するものを実感することによる成長幅は計り知れないものがあります。そして、その場にながら全世界を見ることも可能な時代でもあります。我々人間にとって、様々な場面において何が有用なのかを見つける力こそ「生きる力」なのかもしれません。